

【指示待ちではなく自分で考え選択できる子へ】

私たちが大切にしているモンテッソーリ教育。

地域の方からも「モンテッソーリ教育に興味がある」という声を聞く機会が増えたように感じます。著名人の方たちが受けた教育ということもあって徐々に名前が知れ渡ってきました。

たとえば…

プロ棋士の藤井聡太さん・オバマ前大統領・Facebook/Google/Amazonの創設者などなどモンテッソーリ教育の目的を一言でいうと「自立」です。

自分で考え選択できる人に育ててほしい、そんな願いがこめられています。

そのため、私たちが受けてきたような一方的に指示される教育方法とは違います。

一般的な教育



〇〇してね！



どうしようか？



モンテッソーリ教育



いつも指示待ちの子になってしまうかも？

発想力や問題解決能力、応用力が育ちやすい

最近では小学校でも子ども達だけでディスカッションをする時間や、テーマについて調べたことをプレゼンするなどのカリキュラムも組み込まれてきています。

そういった場面では、もっとこの部分を掘り下げてみよう、どうやって調べようか？と自分たちの考えや想いを伝えあうことも必要な力になってきています。モンテッソーリは100年以上も前からこういった学び方を説いてきたのですね。

園ではこうした教育の流れを踏まえて、数年前からサークルタイムという時間を取り入れています。自分の話を聞いてほしい、だから相手の話も最後まで聞くんだ！と一人ひとりの話に耳を傾けたり、テーマに沿ってディスカッションをしています。

自分の「おもい・考え」を伝えあう、ということを経験しておくことで、自分の意見を臆さずに、自信を持って伝えられる人、そして相手にもおもいがあることを理解できる人へと成長してほしい、そんなおもいを込めています。

もう一つ、園では大切にしていることがあります。（本当はまだまだたくさんありますが…）

「手を出す」よりも「見守る」ことで子どもは育つという考えです。私たち大人は子どものそばに寄り添って、見守る存在であることが大事です。決して手を出し過ぎたり、世話を焼く存在ではなく、子どもの能力を引き出す存在であり続けたいと思っています。手を出して面倒を見るのがいけないのではありません。ただ、「この子はきっとこうしたいと思っているはず！」「これで遊びたいんでしょ？」と気持ちを先読みし過ぎてしまったり、万全に準備を整えすぎてしまっていると、与えられた環境の中でやっていくことに慣れてしまうかもしれません。園では学年が大きくなると、準備や後片付けも子ども達と一緒にこない、何をするにも事前の準備と後始末があるということを知らせます。そうすることで、〇〇をやりたい！とアイデアが浮かんだときに、その前後にどんな活動や準備が必要なのかの創造がつきやすくなります。子どもは動きを通して学ぶ、とも言われていますから、この大切な乳幼児期に大人に見守られながら、たくさんの経験を積んでいってほしいと思います。（尾池）